今、広島では……

産地直販ー消費者運動に向けて

去る5月27日、広島ワールドフレンドシップセンターで、産地直販活動を話し合うための第2回目の百人委の集会が開かれた。当日は、団地で消費者運動にも参加しておられる婦人民主クラブの山島さんをはじめとして、十数名の仲間が集まった。集会は山島さんの経験に基く消費者運動の理想と現実、そしてその間にある大きな溝というものについて具体的な例をあげながら話し合われた。たとえば一般消費者は価格、品質に関して全く容赦のないこと。理想や理論の上でのたてまえが殆ど何のイミもないこと。まときった売り方をするにしても生産者の側で小さな束に分けておくことが要求されること。きまった時に定期的に必ず来なければすぐ客は離れること。消費者運動をしている消費者はなまなり上品質・価格についての知識をもっていることなど……

「見えない手」の拒否

亦栄之郷共同体ならは「我々の直販運動にとって価格とは何か」という問題提起がなされた。我々は直販運動を単なる安売りの手段としてでなく今日ある流通機構のもつ中間搾取をなくし、消費者に新鮮なつ本物の無農薬野菜をとどけるいとによって、生産者及び消費者が共に生きのびるための強い運帯をきづくことを目的とするものであるが、それにしてもそれが、資本主義社会の中で行なわれるなぎりにおいて、便宜的にも価格をつけ、貨幣を媒介にせざるをえない。

共同体から提起した価格決定方法は以下のようである。まず共同体がその生産コスト（種子代、肥料代、生活費）プラス運送コスト（ガソリン代、自動車の原価償却）等を考慮して、それぞれの作物についての最低価格を提示する。消費者及び広島の百人委のメンバーはそれを受けて、価格決定会員会（そんなエエもンか！）を開き市場価格とてらし合わせて最終価格を決定する。ただその際原則として市場価格を上まわることは絶対ないようにする。又ちがっとぐらい安いのでは運動的効果がないので、ある品物に限って、市場の半値あるいは半値以下でさばくことによって価格の秘密を暴く。

また広島での百人委メンバーの活動として、①共同体から依頼があった時、価格情報を提供する（広島になぎらず各地でセンターになってやろうと思われる方は百人委まで御一報下さい。）②ビラ（直販のお知らせ及び、共同体の情宣を書いたビラ）を団地に入れることと、ポスター貼り。③販売当日の手伝い。④直販で余まったものを出来るだけ買いとるのようなことをしようと話し合われた。

消費者への呼びかけ

明くる28日、広島市牛田町にある公務員住宅に直販の依頼と我々の運動の説明に出かけていった。我々は団地向け主婦向け用のパンフを新しく作り、その中で共同体運動の目的と共同体運動にとっての直販運動の目的とを説明した。そしてこつの提案を行った。①土地の共有運動への参加の呼びかけ、②消費者自身の生産活動への参加、③無農薬直販運動である。

我々はそこで亦栄の赤大根と山松菜を実験的にみせて、買いとってもらった。話し合いの結果、①最終価格は「消費者の側できめる」のを理想とする点。②生産者と消費者の契約にもとずく計画生産の可能性を追求する。③消費者運動の活動にあるレジャー農園の考え方を、消費者農園の方向に発展させる方法を考えてゆく点に於て意見の一致をみた。

いろいろばた

Q亦栄にボンゴが入りました。46年型のバンで、ポップリカよりずっとたくさん積めるのデガス。

A夏のキャンプに向けて、京都と大阪でキャンプ説明会をしました。6月30日→7月1日には、大阪四条畷のこむうな塾で「君はキャンプで何をする？」集会を定例会となねてします。多数の参加を！

Qこの「備北だより」の編集会議は毎月第2土曜の夜、製作は第4土曜の夜、こむうな塾に集まってやります。あなたも「備北だより」を作ってみましょんな？

Q人間関係を問題にしながら、今の百人委での人間関係はあまりに機能的なつながりしかないのではないかと　内部から自己批判が起き、こないだいろいろ話し合いました。備北だよりの製作、通信事務を共同作業化し、顔を合わせる回数をふやす、定例会のやり方を工夫する（ツルシアゲ・コミューンなど…

ヨーロッパ共同体めぐり

〈その8〉ナポリ

沼野富治

ナポリでのぐりあった彼女（コミュン）のことを報告します。

ローマの中心地に近い、大学の側の団地で、20近くのフラットを組織して、共有の自動車、本、印刷機械を持っているコミュン。彼らは、各棟の854のフラットの間で、共同炊事をし、各フラットは平均354人。当然台所は余るので、普通の部屋に改造して、各自個室をもっている。この地域は低所得者が多く、その為、彼らは労働者向けに、夜間学校を開いていて、毎日、英語、歴史等教えている。メンバーは半数近くが、大学生で、5年前に始めた時は、全員学生だった。又、研究グループ、公害、イタリアの南北の較差の問題等、活動的だった。メンバーの労働者のフラットに案内されて、話しに行ったけど政治意識が非常に高い。彼らの活動の結果だろう。

都市と効外のコミュンの関係

ナポリのコミュンも、労働者の為の夜間学校を持っていた。ナポリは、表通りやら、サンタルチア、ベスビオスは、本当に美しいが、裏通りは、汚くて貧しい人々が多い。釜ヶ崎よりも、広い地域にわたって。これらの問題に、政府はもちろん、共産党でさえも手をつけない。そこで、市内のコミュン3つ、効外のコミュン2つが、連絡をとっていて、公共の建物を建てるように、デモしたり、夜間学校の開設など活躍している。彼らの各コミュンは、平均4人で小さいが、連絡はよくとっていて、ミーティングもよくやっていた。問題が、具体的なこと、基盤がしっかりしているからだろう。効外の2つのコミュンは、機械を使わない農業をしていて、果物などを市内のコミュンに送っていた。又、家具製作の小さな仕事場を持っていて、自分達のコミュン用に作っていた。

イタリアは、北と南の効差が大きい。ナポリでは、特に、職につくのが難しく、通りでは、ヤミのタバコを売る子供、若者、老人であふれているし、1家族平均子供4.5人で、学校が少ないという問題をかかえている。これらの2つのコミュンは、僕にとっては、都市におけるコミュンということで、大きなヒントになった。やはり矛盾が大きい所では、それだけ活動的になるのだろう。ナポリで、貧しい人々に対する活動をしているグループから、これらの問題に関する パンフレットや新聞、本等をもらったので、又、彼らに、山谷やコトブキ、釜ヶ崎のことを話したら、詳しく知りたいという事なので、英文資料があったら、送って下さい。（西宮支援会（白野宛））

東京での〝コミュンの会〟に参加して思ったこと

〈近藤保義〉

6月23日、多摩川の近くの、バオバブ保育園で、野田の一軒家の竹下さんや、今防人さんらが主催の〝コミュンの会〟があった。私は、例によって運賃の無料近似値手段（のり、出席時間が大巾に遅れた。夜夜中（よるよなか）、そこでは、宇宙体操なるものの公開中で、初めての私などは、ポカンと見ているのみでした。参加者は、いわゆる、宇宙人的、たろう人的人達が多かった。夜中中（よなかじゅう）、あっちこっちで、ミィーティングされていた。そこでのことをちょっとばかし!!

連中は、弥栄を郷共同体のことを、あまりにも政治的であり、尾関シズムがあり、それになじめない人間は、出ていかなければならんのとちがうか!とか、もっとどっぷりと赤栄に、百姓に、ひたってもらいたいもんだ。そうすることが、本まもんであるかのように。私は、弥栄がたしかに、尾関氏の意見の多くを取り入れて来たと思う。が、それは、弥栄が、尾関シズムに乗っているのではないと思う。少なくとも、弥栄のメンバーの間では、話し合いが十分に（確かに不十分なこともあったが、それは個人の責任であると思う）行なわれ、メンバーのつまり郷の意見として行動なり、運営なりがなされて来たものと思う。百人委員会は〝メンバーの意見・情報をできるだけ吸収し、それを全員のものにする〟と言っている。それを弥栄では、一生懸命実施しようとしていると思う。

共同体なんて、ある意見で、政党みたいなものだと思う。A共同体とB共同体は、まるで異質のものを持ち合わせているだろうし、Aでうまくいかないことが、Bでうまくいくことがあるように!!共同体もまた、特性があるもんだと思う。Aにするか、Bにするかは、話合いであり、個人でもある。